

鈴 蘭 第3号

発行者 青木 伸弘
編集 「鈴 蘭」編集委員会
〒763-8507
香川県丸亀市津森町219番地
TEL (0877) 23-5555
FAX (0877) 23-6200
<http://www.jyujin-asadahp.jp>
題 字 青木 伸弘



二年目を迎えて

医療法人社団重仁 麻田総合病院
理事長 青木 伸弘

新法人として二年目を迎えるに当たり、今年度の当院が医療機関として最低限なくてはならないことを、覚悟を持ってお伝えしたいと思います。

昨年十月の第六次医療法改正により、「地域医療ビジョン」なるものを実施し、四月からは介護保険法も変わりました。当院は「急性期」「回復期」「障害者」病棟に加え、新たに「包括ケア病棟」を追加するに至り、急性期を扱う近隣医療機関から患者様をお預かりして、在宅に自信を持って安心して帰れるまでの期間（約二か月間）を入院する施設を設けました。

今後は、近隣での医療機関、介護施設、開業医の皆様との連携をより強く求められることとなります。更に、二年目の当院は新たな理念のもとに、これらの役割の違う入院施設を充実して行く所存であります。どうか近隣の皆様のご指導ご鞭撻により、より良い病院創りを心掛けますので、ご理解の程宜しくお願い申し上げます、挨拶に代えさせていただきます。

連携室だより



地域医療連携室
室長 万波 俊文

昨年の平成26年12月1日付けで、村嶋副院長の後任として、地域医療連携室の室長に就任いたしました、万波俊文です。遅ればせながら、日頃より連携室にご協力を賜り、この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

ところで、M・U麻田総合病院から、”重仁”麻田総合病院に変わって、早くも一年が経ちます。この一年で、変わった事、変わらない事々々あるでしょうが、大事な事は、もう一度原点に返って、この丸亀という地域において、”重仁”麻田総合病院は何ができるのか？どうすればお役にたてるのか？(重仁らしさとは？)ということを探求していき、それらを一つ一つ具現化していくことではないでしょうか。そして、その地域においてお役にたてることができる可能性があることの一つに、地域との連携をあげることができると思います。地域との連携と言いますが、あまりにも漠然としていますので、もう少し具体的に話しますと、今年の2月より新たに開設いたしました、”地域包括ケア病棟”の存在があるのではないかと思います。この地域包括ケア病棟には、主に以下のような方々が入院されます。

① 当院または他院において急性期の治療を施されて、ある程度状態が落ち着いてきたが、すぐには自宅に戻れそうもないため、退院にむけての医療やリハビリテーションが必要とされる場合。
② 自宅で訪問診療を受けたり、介護施設で療養されていたが、状態が悪化したため、医療を必要とされる場合。

以上のような場合の方々の入院等を円滑に進めていくための役割を担うのが、連携室であると考えております。

現在、連携室には、看護師一名、医療ソーシャルワーカー四名、事務員四名が所属しており、随時情報を共有し連携をとってチームで対応していくことを常に心がけておりますが、まだまだ不備な点も多々あるうかと思われれます。尚一層、地域の皆様のお役に少しでも立てるよう努力していく所存ですので、今後ともご協力の程よろしくお願いいたします。



眼科診療時間のご案内

午前 9:00～12:00
(月・火・水・木・金・土)

午後 14:00～17:30
(月・火・水・金)

予約制ではありませんので、ご都合のよろしい時にお越しください。検査のご予約も必要ありません。



連携室より
お知らせです



2月10日より、当院眼科にOCT(光干渉断層計)が導入されました。OCT検査とは、網膜の断層画像を撮影する検査です。これにより、網膜の状態が明らかとなり、断層像から網膜の厚さや、血管の大きさ、形、深さなどが分かるようになります。緑内障や糖尿病網膜症、加齢黄斑変性などの失明につながる眼の病気の診断に有効です。

専用の台にあごをのせ、機械の中をのぞくだけで2～3分で終了し、

眼の負担も少ない検査です。費用は3割負担の方で六百円程度となっています。

近頃、視界が悪くなったなあと感じる方、ぜひ眼科でご相談ください。

医師紹介



消化器外科
栗田 和也

4月から水曜日の内視鏡業務でお世話になります栗田和也と申します。現在は岡山大学消化器外科学講座で大学院生として研究に勤しんでおります。出身は広島県福山市で出身大学は産業医科大学です。

昨年まで香川労災病院外科に5年間勤務していたため、香川に非常に愛着があります。ですのでまたこの香川で仕事ができることになり大変うれしく思っております。週に一度の勤務ですが、微力ながら丁寧な診療を心がけて頑張っております。何卒宜しくお願いいたします。



栄養科 温冷配膳車



当院の食事は適温配膳として長年保温トレイを利用してきました。よく皆さんに「お食事」ではなく、「お弁当」と言われていたのは長方形の箱型からだと思います。全国的にも珍しい保温トレイによる食事の提供は、トレイの製造中止やより質の高い食事を提供するためには限界がありました。

この春から、温冷配膳車を利用した食事提供を始めました。ピンクの外観がかわいらしい温冷配膳車。新しく統一感のある食器でのお食事。温かいものは温かく、冷たい物は冷たく、皆さんの手元に届いていることと思います。入院すると暗い事ばかりかも知れませんが、三度のお食事が入院生活の中で楽しくなってくれることを期待しています。

栄養科スタッフ一同

部署紹介 ～本館6階 地域包括ケア病棟～



地域包括ケアとは、急性期医療から在宅療養までを結ぶ「要」であり、地域の実情に応じて、高齢者が、可能な限り、住み慣れた地域でその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、支援していく病棟です。

具体的には日常生活機能向上のためのリハビリや退院後の悪化予防のための指導及び家族への介護方法の指導、社会資源の活用方法の助言等、リハビリやソーシャルワーカー等の他職種と協働し、それぞれ個々人にあった在宅復帰への支援を行います。病棟内ではなるべく日常の生活に近づけるよう、食事、排泄はベッドより離れて行うように援助させていただいております。

入浴も在宅での入浴方法をイメージし、その患者様にあった方法で入浴できるよう考慮してまた、職員だけでなく、患者様同士のコミュニケーションも大切にしたいと考え、集団で行う体操やレクリエーションを取り入れております。

まだまだ手探りの状態ではありますが、患者様やご家族の方が笑顔で帰れるよう、スタッフ全員が在宅療養へのイメージを膨らませながら日々頑張っております。よろしくお願いいたします。



お知らせ

4月1日より1階エレベーターホール東側に売店、3階食堂が新規オープンしましたので、ご案内いたします。

売店営業時間

月～土曜日 8時30分～18時30分
日曜日・祝祭日 10時～16時



食堂営業時間

月～土曜日 11時～15時
オーダーストップ 14時30分
定休日：日曜・祝祭日





新しくなりました
事務職員の制服が

そのため、人工呼吸器使用、経管栄養、胃瘻、酸素療法の患者様が多く、高度な医療提供、看護も急性期から慢性期へと幅広くなっています。
その中で看護師も、病状の変化に速やかに対応できる観察力、判断力を養う必要が不可欠である反面、長期入院を余儀なくされている患者様のADLの向上、ご家族への働きかけが大変重要となります。
患者様ご家族様のニーズに応えられる看護を提供するために、スタッフ同責任を持って働いています。障害者病棟は知力、他に、気力、体力が必要となります。我こそはと思われる方、ぜひ立候補してみませんか。



師長に聞く

3階障害者病棟師長 銭亀 初江

3階病棟（障害者病棟）は、担当師長が2名、副師長が2名います。障害者病棟は60床で、神経難病の患者様や、重度意識障害などの患者様が入院しています。



丸亀市、人間ドックに助成金

平成27年4月受診分から、丸亀市国民健康保険に加入している方が人間ドックを受診した場合、健診料金の一部を丸亀市が負担します。対象は1日ドック・1泊2日ドックです。

	1日ドック(男性)	1日ドック(女性)	1泊2日ドック
費用	32,000円 (前立腺がん含む)	37,160円 (乳がん・子宮がん含む)	66,700円
丸亀市からの助成金	10,000円	10,000円	15,000円
自己負担額	22,000円	27,160円	51,700円
内容	詳しい血液検査、腹部超音波検査などを約半日かけて受けて頂くことにより、あなたの健康状態が総合的に評価出来ます。 胃の検査はバリウム検査から胃カメラに変更可能です。 頭部MRI検査や頸動脈超音波検査などのオプション検査も追加できますので、受診日の1週間前までにお電話にてご連絡ください。		

人間ドックのご予約・お問い合わせは
TEL : 0877-24-8300(直通) 健診科まで

☆麻田マラソン部☆

2015年2月1日、私は第69回香川丸亀国際ハーフマラソンにに行ってきました。何を隠そう、私は38歳にして初めてのマラソン参戦であり、とにかく不安でしたがありませんでした。マラソンでは、とにかく足が痛い！息が詰まりそう！汗だく！と何度もリタイアを考えましたが、辛さを乗り切った先にあるゴールは爽快そのものでした!!



参加したメンバーは全員完走できてみんなで喜びを分かち合いました。
enjoy running!!

(榎並 謙二郎)

4月1日 入職式が行われました

新入職員のみなさん、就職おめでとうございます。

今年度は31名の方を当法人の新たな仲間としてお迎えしました。



4月1日の入職式に続き2日間のオリエンテーションと緊張の連続だったかと思いますが、青木理事長からの激励の言葉を胸に、初心を忘れず医療法人社団重仁麻田総合病院の一員として、これから共に頑張っていきたいと思います。

編集後記

新年度を迎えて当院も31名が新しく入職しました。27年度はこの新入職員たちを含めたチームで地域医療にあたっていくこととなります。一番バッターがヒットで出れば、二番が送って三番、四番が返すといううような、お互いがそれぞれの役割をしっかりと果たすチームが勝利することは、自明の理です。病院も同じだと思います。各部署がそれぞれの役割をしっかりと果たすことで、重仁麻田総合病院の基礎が築かれていきます。その点から考えて、広報誌「鈴蘭」の役割は「縦割」の病院組織にあつて、横のつながりを創ることが第一の目的です。もうひとつは、地域の方とのパイプの役割を果たすことです。スタッフ一同、広報誌「鈴蘭」が親しみやすく、読みやすく、的確な報道が出来るよう頑張っていく所存です。

加藤 繁秋

新人紹介

リハビリテーション科

言語聴覚士

山地 裕子さん



はじめまして。1月よりリハビリテーション科に勤務している言語聴覚士の山地裕子と申します。入院と外来の成人・小児の患者様を担当させて頂いております。まだまだ未熟で迷惑をおかけするかもしれませんが、また、様々な機関と連携を深めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

麻田総合病院 新ロゴマーク!



ピンク色を基調とし、やさしく、あたたかなイメージのロゴマークが誕生しました。みなさんのお目に触れる機会もあるかと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。

制作 麻田総合病院 企画情報課